

令和7年度 学校経営計画に対する中間報告書(案)

令和7年度 学校経営計画に対する中間報告書(案)									
重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	分析(成果と後期への課題)	判定基準	備考	石川県立七尾東雲高等学校	
1. 学習環境の充実と「主体的・対話的で深い学び」を旨とした授業づくり【わか】	① 基礎学力の定着を目標に、10分間の朝学習にしっかりと取り組ませる。	教務課 全学年	【成果指標】 生徒全員が真面目に朝学習に取り組んでいる。	真面目に朝学習に取り組んでいると答える生徒の割合 B 評価 84% (今年度からの取組) A 36% + B 48% = 84%	今年度から朝学習の時間を5分間から10分間に延長した。自習的に学習する習慣づくりを目標としている。進路学習、小テストの準備、各種検定試験対策など、内容は学年ごとに設定し、B評価となった。後期は評価が上がるよう取り組み内容を工夫していく。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価)		
	② わかりやすい授業づくりの一環として、特にクロムブック等のICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	教務課 各教科	【努力指標】 教員が、ICT機器を積極的に活用し、授業改善に努めている。	生徒による授業評価(漢習科目を除く)において「ICT機器をよく活用している」と回答する評価が A 評価 82% (昨年=88%) A 55% + B 27% = 82%	教員が「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価は82%であった。5教科では地理・公民科の93%が最も高い評価であった。一方、国語、数学、理科は80%台にとどまっている。効果的にICT機器を利用できる場面を全教科で協議する時間を設けていく。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価)		
	③ 主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動を効果的に取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組めるようにする。	教務課 各教科	【満足度指標】 生徒が、主体的に授業に参加し、対話的に学習していると感じている。	生徒による授業評価において「生徒が発言や発表、学び合いをする場面が大変多い」と回答する評価が A 評価 89% (昨年=90%) A 55% + B 34% = 89%	「生徒が発言や発表をおこなう場面が多い」と回答する肯定的評価は89%で、ここ数年の状況はほとんど変わっていない。発言、発表、学び合い、とは何かを生徒教師間で認識を共有して活動の創出を図りたい。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価)		
	④ わかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	教務課 各教科	【満足度指標】 生徒が「授業を受けている、理解できた」と感じている。	生徒による授業評価において「授業を受けてよく理解できたと感じる」と回答する評価が A 評価 94% (昨年=94%) A 64% + B 30% = 94%	「授業を受けて理解できたと感じる」と回答する肯定的評価94%であった。A評価が64%、B評価が30%なので、A評価の割合が増加となるよう授業内容を復習できる課題等の活用をすすめて、理解の促進を図っていく。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価)		
2. 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路を話し、進路実現に向けて取り組むよう、各行事の事前・事後学習を充実させる。	進路指導課 学級担任	【満足度指標】 生徒が「進路ガイダンスは主体的に将来を考える上で役立つ」と感じている。	学校の進路説明会、企業見学会等が、主体的に将来を考える上で役立っているとする生徒の肯定的評価が A 評価 86% (昨年=90%) A 43% + B 43% = 86%	1年生が79%(昨年93%)、2年生が85%(87%)、3年生が94%(92%)と進路活動が本格化する3年生の評価は例年高い。一方、1年生の評価が今年度は低くなっている。3年生は親子の会話がよくされているので、1、2年生でも親子で進路情報に触れる機会を増やしたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価)		
	② 生徒と保護者が進路について話し合う機会を持てるよう、資料や情報を活用しながら面談等で働きかけ、生徒の進路意識の高揚を図る。	進路指導課 学級担任	【成果指標】 家庭で、生徒と保護者が進路について話し合う機会を持っている。	家庭で、生徒・保護者が将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 評価 81% (昨年=78%) A 30%(保 27%, 生 33%) B 51%(保 57%, 生 45%) A + B = 81%	保護者の回答で、1年生が83%(昨年72%)、2年生が79%(79%)、3年生が89%(89%)となっている。1年生で評価が上っているが、進路意識の向上のため保護者との連携がさらに求められる。3年生は求人票をPCやスマホで閲覧できるので、1、2年生でも早い段階から進路意識を高める工夫をしていきたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒・保護者にアンケートを実施する。(生徒・保護者の学校評価)		
	③ インターネット前、実施の目的を丁寧に説明し、基本的な接遇指導を繰り返して徹底して行う。	2学年 進路指導課	【成果指標】 インターンシップにおける生徒の接遇態度が良い。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関して肯定的に評価した企業が A 評価 98% (昨年=100%) A 79% + B 19% = 98%	昨年度の協力企業は32社だったが、今年度は31社となった。企業での実習について評価は概ね良好であった。早期型企業研修は、総合科ビジネス系系列は7月に実施し、農業系列と機械システム科は9月実施予定であるが、引き続き接遇指導を丁寧に実施していく。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。		
3. 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成【心を育てる生徒指導】	① 生徒指導課と教職員、公安委員で「朝のあいさつ運動」に取り組む。	生徒指導課 特別活動課 部活動	【成果指標】 生徒が相手の目を見て自分から進んで大きな声であいさつができている。	生徒の学校評価において「積極的なあいさつができている」と回答する肯定的評価が A 評価 68% (昨年=74%) A 25% + B 43% = 68%	1年生が59%と低い割合で、3年生は81%が積極的にあいさつができていると回答している。前期は6月に公安委員と生徒会役員で朝のあいさつ運動週間を実施した。後期は特別活動課と協力し、部活動単位で朝のあいさつ運動を実施するとともに、グッドマナーキャンペーンなど、積極的にあいさつのできる生徒の割合を増やしたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価)		

重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	分析（成果と後期への課題）	判定基準	備考
② 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等を積極的に推進していく。	【満足度指標】 生徒が、ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、自己有用感が高まったと感じている。	特別活動課 学級担任	【満足度指標】 生徒が、ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、自己有用感が高まったと感じている。	ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、ボランティア精神や自己有用感が高まったとする生徒の肯定的評価が B 評価 74% (昨年=82%) A 25% + B 49% = 74%	ボランティア週間を設けた結果、ボランティアを通じて責任感と達成感が高まった。生徒自身の「よいところを見つけない、よい活動をした」という自己有用感やボランティア意欲が高まった結果、肯定的評価が74%となった。昨年の評価よりマイナス8%となっているので、後期は地域貢献活動について、新たな試みを検討していく。	Cの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
③ 基本的な生活習慣の確立のため、1日の生活力のもととなる朝食の習慣化を目指した指導を行う。	【成果指標】 生徒が朝食の大切さを理解し、朝食摂取率が向上する。	保健環境課	【成果指標】 生徒が朝食の大切さを理解し、朝食摂取率が向上する。	保護者へのアンケート調査において、生徒が朝食を食べて登校すると答える保護者の割合が A 評価 85% (昨年=81%) A 61% + B 24% = 85%	保健だけでなく、集会時に朝食摂取の大切さを呼びかけること等を通して、啓蒙活動を行った。一昨年度まで生徒による回答であったが、昨年度からは保護者回答では85%の生徒が朝食を摂取しているという結果が割合が高くなっている。朝食を毎日食べさせて登校する生徒が増加するような取り組みを今後も継続していきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。 (保護者の学校評価)
④ 朝の登校指導及び登校の校内巡回を通して、頭髪服装の整えことや、規範意識の大切さを繰り返し指導する。	【努力指標】 全教職員が共通理解のもと、挨拶の励行や規範意識の向上を図るため、生徒に声をかけている。	生徒指導課	【努力指標】 全教職員が共通理解のもと、挨拶の励行や規範意識の向上を図るため、生徒に声をかけている。	登校指導や校内巡回の際に、生徒に声をかけているとする教員の肯定的評価が A 評価 91% (昨年=93%) A 33% + B 58% = 91%	毎週月、水、金曜日に生徒指導課で徳田駅と朝日小学校グラウンドで登校指導を行っている。昼休みの校内巡回を含め、生徒に対して積極的に声をかけを行い、学校生活全般において、全職員で指導を徹底していき、生徒が安心・安全に過ごせる環境をつくりたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないよう取り組むを行う。	【努力指標】 教員が、アンケート調査や面談、校内巡回により、生徒の動向を掴み、いじめの未然防止に繋げている。	生徒指導課	【努力指標】 教員が、アンケート調査や面談、校内巡回により、生徒の動向を掴み、いじめの未然防止に繋げている。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡回等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする教員の肯定的評価が B 評価 86% (昨年=93%) A 22% + B 64% = 86%	6月に全校生徒対象の生徒指導アンケートを行い、気にはなる生徒以外にも、生徒の変化を見逃さない。個人面談以外にも、生徒に対して積極的に声をかけよう。個人面談を高くし、ホーム担任だけでなく、引部活動顧問等が必要に応じて面談を行っている。引き続き、昼休みの学年団による校内巡回と生徒の動き把握を徹底し、いじめの未然防止に努めたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
① 保護者・地域から信頼される教育活動の推進【自信を持たせ、経験を積ませる】	【成果指標】 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	各学科	【成果指標】 工業・演劇・農業・商業の分野での地域と連携する事業や学習において実践的な取組が積極的に行われている。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取組ができているとする生徒の肯定的評価が B 評価 63% (昨年=69%) A 21% + B 42% = 63%	総合学科ではサツマイモ収穫体験や復興観光ガイドの実施を予定している。演劇科では能登半島地震復興応援ソングを手話にし、珠洲市のイベントで披露している。これから盲学校や特別支援学校との交流も予定している。今後も地域と連携する事業のさまざまな活動を通して地域と関わり、生徒の自己存在感や自己肯定感の高まりにつなげていきたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
② 生徒が意欲的に取り組むことのできる部活動を展開していく。	【成果指標】 生徒が意欲的に部活動に取り組んでいる。	特別活動課 学級担任	【成果指標】 生徒が意欲的に部活動に取り組んでいる。	部活動の活動日に対して、8割以上参加しているという生徒の肯定的評価が C 評価 79% (昨年=76%) A 60% + B 19% = 79%	部活動未加入者が年々多くなってきていることに加え、今年度は、2年生の部活動加入率が極端に低い。生徒に対して部活動への加入を促すとともに、生徒が自己の成長や達成感を味わえる指導の工夫や粘り強い対応が求められる。また、各部活動の成果や頑張りをさらに学校全体で共有し、切磋琢磨する関係性をつくり後期はB評価以上を目指したい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
③ 本校の教育活動の様子をホームページや校門前掲示板を活用し、学校外部に効果的に情報を発信する。	【成果指標】 学校外部への効果的な情報発信を行うことができている。	総務課 各学科	【成果指標】 学校外部への効果的な情報発信を行うことができている。	本校の教育活動の様子を学校外部に効果的に情報発信ができているとする教員の肯定的評価が B 評価 84% (昨年=95%) A 24% + B 60% = 84%	昨年度の同時期の評価より肯定的な評価が11%減少した。昨年度よりマニュアルを新たにし、手帳にホームページの記事を更新できるようにしている。学が、内容の充実につながっていない状況である。学科のニュースや部活動の記事など、全員が情報発信できる環境を整えていく。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
⑤ 教職員の働き方改革の推進	【努力指標】 教職員一人ひとりが、有機的に連携協働し、具体的な手立てを明確にするこをを通して、業務の効率化に対する意識を高め、働き方改革を推進する。	各課・科・学年の主任	【努力指標】 教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいる。	教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に取り組んでいるとする肯定的評価が B 評価 82% (昨年=71%) A 18% + B 64% = 82%	若手教員を中心に、部活動指導での時間外勤務が増加しているが、全体では時間減少に向けての意識は向上している。A評価が前年比4%下降したもののA、Bを合わせると11%増となった。部活動指導での時間減少は難しい面があるが、教科、分掌、学年等で業務の平準化等の工夫をし、働き方改革の意識を更に高めていきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)